

2021年度 社会福祉法人稚の木福社会 事業計画

1. はじめに

1) 2020年度の概括

①法人本部機能の強化

人事、経理等を法人が取りまとめて管理するなど新たな体制での運用を開始した。

②働き方改革と魅力ある職場作り

働き方改革関連法への対応をはじめ、働きやすい職場環境を整備する為に諸規程の見直し等を進めた。

③人材確保対策

法人本部に採用担当チームを作り、人材の確保に取り組んだ。コロナ禍の影響もあり、当初予定していた外国人人材の確保に向けた動きや大規模な職員採用イベントは中止となった。

④新規事業

障がいヘルパー事業の運営を開始するなど、障がい分野への参入を進めた。放課後等デイサービス、生活介護、就労支援、グループホームについては2021年度事業開始に向けて準備を進めた。尚、当初予定していた企業主導型保育所については、開設及び運営補助金の採択に漏れたため、中止となった。次年度以降の再申請については検討をしていく。

⑤リスクマネジメント

大規模災害に備えBCPを作成し、非常食、防災設備等の整備を進めた。

⑥新型コロナウイルス感染症対策

マスクの着用、アルコール消毒などの基本的な感染症対策を徹底した。また、緊急事態宣言や地域の感染状況により、面会の自粛、テレビ電話面会の開始、スタッフのプライベートも含んだ行動自粛要請などの対策に取り組んだ。

2) 2021年度の重点事業

半田市で唯一の「特養を運営する法人」として、その使命と責任を自覚し、地域での役割をしっかりと果たしていくため、以下の点を重点に魅力ある法人運営に努めていく。

①法人本部機能の強化

組織体制を見直し、法人本部機能を強化するとともに、理念を見直すことで新たなステップへと法人を成長させる。

《 新 理 念 》

“地域最後の拠り所”をミッションとする

“自分らしさ”をアシストする

“福祉”をエンjoyする

②介護報酬改定への対応

情報を収集し、新規取得可能な加算や体制整備についての検討と対策を進める。

③リスクマネジメント

大規模災害、新型コロナウイルス等のリスクへの備えを進める。

#### ④働き方改革と魅力ある職場作り

働き方改革関連法への対応をはじめ、働きやすい職場環境を整備する為に諸規程の見直しについて検討していく。

#### ⑤人材確保対策

ヒトが集まる、定着する魅力ある法人作りを進めていく。また、ICTやロボット技術等を活用したサービス提供の効率化についての検討も進めていく。

#### ⑥新規事業

新たにスタートした障がい事業について利用者確保、質の向上を進め、安定した事業運営ができる基盤を作る。生活介護、就労支援A型、グループホームの新規開設に向けて準備を行う。また、それぞれの事業所の移転および事業拡大についての検討を進める。

障がい事業以外の、収益事業や公益事業の開始についても情報収集を進める。

#### ⑦地域連携

中野会との法人間連携や地域貢献をより一層進める。

## 2. 施設別計画

### 1) 特別養護老人ホーム瑞光の里

- ・【本館平均人数】特養 88 人、ショート 19.5 人を目標とする。
- ・【別館平均人数】特養 39 人を目標とする。
- ・【平均介護度】本館 4.1、別館 4.2 を目標とする。
- ・介護福祉士比率の向上を図る。(現在：46.24 人、目標：48 人)
- ・認知症介護実践リーダーの養成を進める。
- ・ユニットリーダー研修、介護福祉士実習指導者などの養成を進める。
- ・ショートステイ緊急受け入れ体制を一層強化する。(対象問わず、措置入所を含む)
- ・入居者様に対するサービスの質の向上につなげるため、職員が働きやすい環境を整える。
- ・地域から信頼される施設運営を行い、職員のモチベーションアップを図る。
- ・中長期にわたる設備等の改修計画に基づき施設管理を行う。
- ・介護職員等によるたん吸引等研修の受講を計画的に進める。

### 2) 特別養護老人ホーム第二瑞光の里

- ・【平均人数】特養 87 人、ショート 11 人を目標とする。
- ・【平均介護度】4.0 を目標とする。
- ・介護福祉士比率の向上を図る。(現在：36.2 人 目標：37.5 人 70%)
- ・職員配置体制を見直し、適正な人員配置およびサービス内容の整理を行う。
- ・組織再編に伴い各拠点の連携を強化し情報共有を密に行う。
- ・コロナウイルス対策を十分に実施し地域社会との繋がりを再構築する。
- ・介護保険改定に合わせて加算算定の見直しを行う。
- ・職員の顧客意識を向上させる事で接遇の質向上を図る。
- ・専門職の役割を明確にすることで各職員に責任感とやりがいを持ってもらう。
- ・『利用者ファースト』を全ての業務に根付かせる。

### 3) 特別養護老人ホーム瑞光の里 緑ヶ丘

- ・【平均人数】特養 97 人、ショート 19.5 人を目標とする。
- ・【平均介護度】4.1 を目標とする。

- ・介護福祉士比率の向上を図る。(現在：43人 目標：45人)
- ・チームによるユニットケアを実践する。
- ・受賞した待遇大賞に恥じない待遇や言葉遣いに努める。
- ・事業所を取り巻く環境や変化を理解し、柔軟に対応できる体制を整える。
- ・役職者教育、職員教育を実践し、サービスの質の向上に努める。
- ・介護職員等によるたん吸引等研修の受講を計画的に進める。
- ・共生型サービスについての検討を進める。
- ・地域交流を進め、地域から頼られる施設を目指す。
- ・実習生・ボランティアの受け入れ体制を強化する。
- ・職員の顧客意識を向上させ、接遇力を高める。
- ・日本福祉大学半田キャンパスとの交流を進め、連携を深める。
- ・ユニットリーダー研修実地研修施設として、実習生の受け入れ体制を作る。

#### 4) 総合支援部

##### ①半田養護老人ホーム Link

- ・【平均人数】48人を目標とする。
- ・入居者の生活の充実を図っていく。
- ・他事業所、医療機関との連絡調整強化に目を向けより良い関係構築を図る。
- ・デイサービスセンター第二瑞光の里、瑞光の里居宅介護支援事業所との連携を強化する。
- ・歯科検診の受け入れを継続し、入所者への口腔ケアの向上に努める。
- ・人員体制、業務内容の見直しをすると共に、業務の効率化を図る。
- ・職員教育を行い、認知症・対応困難の入所者対応の技術研鑽に努め、サービスの質の向上を図る。
- ・地域との関わりを継続していく。
- ・特定施設についての調査、検討を進め、指定に向けて計画を進める。

##### ②デイサービスセンター第二瑞光の里

- ・【平均人数】28人/日(730人/月)を目標とする。(内訳：高齢25、予防1、障がい2)
- ・介護福祉士比率の向上を図る。(現在：5人 目標：7人)
- ・職員配置体制を見直し、適正な人員配置およびサービス内容の整理を行う。
- ・障がい福祉サービス提供体制を強化する。
- ・新規利用者獲得を目指し、関連事業所との信頼関係構築に努める。
- ・新規利用者獲得を目指し、ニーズ調査を行い、必要とされるサービス体制の構築を行う。
- ・外部研修等を活用し、職員の援助技術の向上に努める。
- ・施設設備見直しについて検討を開始する。
- ・サービスプログラムの再構築について検討を開始する。

##### ③瑞光の里居宅介護支援事業所

- ・要介護プラン作成件数 1人平均 32件(2020.4~2021.1平均 31.95件/月)を目標とする。
- ・要支援プラン作成件数 1人平均 5件(2020.4~2021.1平均 5件/月)を目標とする。  
(入職後3カ月での目標介護25件、6か月目標介護32件・支援5件とする)
- ・各ケースの情報を共有し、担当不在時にも迅速に対応できる体制を構築する。
- ・地域のコミュニティに出向く事で積極的に地域交流を進める。

- ・委員会や外部研修を活用し、各自の質の向上に努めるとともに、皆で共に考える事で担当ごとのばらつきをなくし、安定したマネジメントを提供する。
- ・他法人との合同事例検討会を継続開催する。
- ・介護支援専門員の年間研修計画策定・実施の確認を行う。
- ・地域の困難事例の受入を継続する。
- ・介護支援専門員実務研修実習受入体制を確保する。
- ・社協や生活支援コーディネーターと連携し、協議の場へ参加する。
- ・法人内の相談員と協力し問題解決にあたり、お互いの関係強化に努める。

#### ④障がい支援課

- ・新規開設事業運営の安定化（人材定着、利用者確保）を最優先課題とし、黒字化を目指す。
- ・生活介護事業を年度内開設できるように準備を進める。
- ・ヘルパーステーション事務所および放課後等デイサービスと生活介護の多機能型拠点の移転先について検討を進める。
- ・居宅介護（ヘルパーステーション）事業において、高齢分野の対応ができる共生型事業について準備を進め、年度内実施を行う。
- ・グループホームと就労支援A型をはじめ、他新規事業についても情報収集を進めていく。

3. 研修計画・・・別紙参照

4. 会議予定・・・別紙参照

以上